

# ご挨拶

同窓会会長 西村 貞一(45回)



新年あけましておめでとうございます。今年は甲陽学院創立百周年の年になる、記念すべき年であります。

この記念すべき年に同窓会としては14年振りに作成する同窓会名簿を発行しようと、2年前から準備を進め、ようやく完成を見ました。委員長を先頭に、編集や広告にご協力をいただいた方々に感謝申し上げますと共に、この名簿を正しく使っていただけるように願ってやみません。

さて、今年はいかなる年になるのでしょうか。国際情勢では米国の大統領や中国の行く末等不安定要素があり、国内では政治は安定していると思われませんが、経済では為替の行方に大きく影響を受ける状況は変わらず、不安定であります。やはり企業の収益が賃金に反映され、個人の収入増が個人消費を伸ばして、安定的に経済が成長していけるようになるべきだと考えます。

企業と言えば、経営者は株主のために収益を最大にするべく務めるべきだ、又、純利益額=分配額(配当等)が多いのが立派な経営者だ、と強調されすぎているのではないのでしょうか。確かに純利益を大きくするのは経営者の責務ではありますが、利益額だけではなく、その利益をあげたプロセスも大切であります。公正な競争を通じて、また近江商人ではありませんが「三方よし」の経営をした後の利益の中から正しく納税をした後の純利益が多い事が本当の良い経営者だと言えます。逆にいえば、昔松下幸之助氏が「企業の最大の社会貢献は税金を払うことだ」と言われましたが、経営者の評価にも納税金額の多寡があっても良いのではないのでしょうか？



発行所  
〒662-0096 西宮市角石町3-138  
甲陽学院同窓会  
発行人 西村貞一  
印刷所  
株式会社小西印刷所

同窓会事務局専用  
TEL 0798-71-4888  
(月・水・木 10:00~16:00)  
FAX 0798-71-4890  
E-mail :  
fvgp1650@mb.infoweb.ne.jp  
同窓会ホームページ  
<http://www.koyogakuin-oba.jp>

## 予告

# 今年の会員総会は8月26日(土)です!

平成29年8月26日(土)12時30分~16時30分 於:ノホテル甲子園

☆今回の主役となるホームカミング学年は、48回生(卒業50年)、63回生(卒業35年)、73回生(卒業25年)です。ホームカミング学年の方はふるってご参加ください!

☆会員総会当日は、中学校新講堂の見学会も予定されています。概要を5ページに掲載しておりますので、是非ご覧ください。



兵庫県西宮市鞍掛町7番7号

■ ショップ

電話:0798-35-0286

営業時間:10:00~19:00

定休日:火曜日



白鹿クラシックス  
webページはこちら

<http://classics.hakushika.co.jp>

■ レストラン

電話:0798-35-0001

営業時間: ランチ 11:00~15:00(L.O.14:30)

ディナー 17:00~22:00(L.O.21:00)

定休日:火曜日



公益財団法人  
白鹿記念酒造博物館

電話:0798-33-0008

開館時間:10:00~17:00  
(入館は~16:30)

休館日:火曜日

兵庫県西宮市鞍掛町8番21号

# 甲陽学院創立百周年記念 会員名簿 発行のお礼

会員名簿編集委員会 委員長 久 義裕 (62 回)

甲陽学院創立百周年を記念して、2017 年 2 月に会員名簿を発行し、購入申込みいただきました会員の皆様にお届けすることができました。

2003 年に前回の会員名簿を発行後、2005 年に施行された「個人情報の保護に関する法律」により名簿発行に対して慎重となる同窓会が多くなりました。しかしそのことが同窓会活動の妨げになったのも事実です。甲陽学院同窓会においてもクラブや地域等の学年をまたがる同窓会を開こうにも連絡先がわからない。名簿発行のための調査を行わないので、会員住所判明率が低下する一方、というような事態が現実となっていました。そのような中、会員名簿発行を希望する声が多く寄せられ、西村貞一会長の英断のもと調査・準備を進め、常務理事会・理事会での協議を経て、2014 年 4 月の役員総会において正式決定したのち、各学年の理事と委員諸兄のご協力を得て、編集作業を進めてまいりました。各位の多大なるご貢献にここであらためて厚く御礼申し上げます。編集作業の最終段階で会員の皆様にお届けした調査葉書へのご回答はより正確な名簿を作成するにあたって貴重な情報となり、2017 年 1 月 25 日現在の調査結果は会員数 19,467 名・住所判明者数 11,370 名・物故者数 4,763 名・住所不明者数 3,334 名となりました。会員諸兄のご協力にあらためて御礼申し上げます。

また賛助広告・賛助金については 2015 年 1 月より募集を本格化させ、最終的に広告 178 件、賛助金 560 件を頂戴することができました。同時に進めました会員名簿販売については 2,838 冊のお申し込みをいただきました。ご賛助いただきました会員の皆様に感謝する次第です。これらすべてにおいて当初の想定を大きく上回ることができ、委託先である株式会社サルトから同窓会に還元を受けることになりました。これを主たる原資として母校甲陽学院に対して同窓会として百周年記念事業を実施する計画となっていることを申し添えます。

なお、名簿に関しましては、約 100 部の余部がございますので、ご希望の方は同窓会事務局までご一報くださるようお願いいたします。

結びになりますが、今後とも同窓会名簿事業への皆様のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

## 会 務 報 告

平成 28 年 11 月 21 日に行われました同窓会理事会における議論を中心に、会務についてご報告いたします。

### 1 会報「甲陽だより」

第 94 号を平成 28 年 7 月 29 日付で発行しました。  
次号第 95 号の原稿は 1 月 10 日を締切日とし、2 月末発行予定とのことでした。

### 2 夏の会員総会

平成 28 年 8 月 27 日(土)の午後 1 時から午後 4 時半までノボテル甲子園におきまして、恒例の夏の会員総会を挙行しました。

第一部は 1 階「鳴尾の間」にて式典と講演会。講師はホームカミング学年でもある 47 回生の坂井逸朗氏でした。アフリカでの橋梁の設計・建設に携わっておられたご経験から「ナイルにかけける橋 ～ウガンダから見たアフリカの日本」というテーマで大変興味深く夢のあるお話をしていただきました。

第二部は会場を 2 階「甲陽の間」に移して懇親会。

現教員の嶋吉先生 (62 回) より「スライドでつづる今どきの甲陽生」というテーマでスライドの上映とお話をしていただき、同窓生一同さらに懐かしさを深めました。

当日の参加者は 203 名で、特にホームカミング学年の 47 回生と 62 回生が多数参加してくださいました。

平成 29 年の会員総会は甲陽学院の創立百周年を記念して盛大に開催される予定です。

### 3 甲陽ファンド奨学金

本格的にファンド委員会が発足してから 12 年目、在校生への支給を始めてから 11 年目を迎えます。

募金活動は平成 17 年度から開始し、これまで 11 年半で約 7,637 万円の醸金が集まりました。平成 28 年度前期 (4 月から 9 月まで) で約 189 万円となっており、昨年の同時期に比べると増加しています。皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

在校生への給付実績は、平成 18 年度から平成 28 年度まで延べ 81 名に、年間 20 万円を支給してきました。

現在のファンド残高は平成 28 年 9 月末で約 5,981 万円となっています。

### 4 同窓会会員名簿の発行について

母校創立百周年記念事業の一環として会員名簿が発行されます。2 月の発行に向けて、情報の収集、広告の申込み、名簿の購入予約等が順調に進んでいるとの報告がありました。

### 5 その他

今秋の発行を目指して「創立百周年記念誌」の編纂が進められています。同窓会においても事務局を窓口として購入ができるように検討中であるとの報告がありました。

# 甲陽学院同窓会奨学金ファンド醸金者一覧

平成17年度から募金活動を始め、翌平成18年度から母校の在校生への奨学金支給を開始した甲陽ファンドは、すでに募金総額が7,500万円を超え、延べ81名(平成28年度は6名)に1人年額20万円の奨学金を支給してきました。昨今の社会・経済情勢は、母校の生徒・保護者にとっても決して無縁とは言えず、同窓会の奨学金は、間違いなく母校と在校生にとって有意義なものとなっております。

一方、経済困窮者への奨学金とは別に、母校在校中に学業やスポーツなどの課外活動で目覚ましい成果を取めた後輩に同窓会から賞品を贈ろうということで、今年度は昨年春に卒業した97回生の中から、「日本生物学オリンピック2016」で金賞を受賞した佐藤紀胤君に図書カード(3万円分)を贈呈いたしました。

醸金いただいた方々に深く御礼申し上げますとともに、今後とも引き続き同窓生の皆様にはファンドへの醸金をお願いいたしたく存じます。醸金金額は一口1万円から、方法は以下の通りです。なお、税法上の寄付金控除の対象にはなりませんので、ご了承ください。

平成28年6月1日以降12月31日までにファンドに醸金くださいました方のご芳名を以下に掲載いたします(敬称略)。まことにありがとうございました。(平成28年5月31日以前に醸金された方は73号～94号に掲載しております。)

19回 石井 賢治	43回 佐藤 芳宏	52回 小原 進	58回 城谷 学
20回 川島 茂	43回 衣笠 隆之	54回 末吉 章浩	59回 島本 佳憲
28回 山本 洋介	45回 小林 智夫	54回 鳥井 和之	60回 藤岡 由夫
32回 松本 康彦	47回 多賀 豊	54回 植田 和孝	60回 阿多 博文
33回 二宮 一明	47回 前田 順也	55回 大林 良和	62回 長宅 芳男
33回 大幡 嘉春	47回 高岡清一郎	55回 浜川 一郎	62回 吉岡 泰彦
34回 横内 昭	47回 山内 一郎	55回 大島 敏郎	63回 鮫島 健
34回 江隈 一夫	47回 瀧口 安彦	56回 大野 順弘	68回 園田 将章
35回 國領 薫	47回 坂井 逸朗	57回 辻 尚人	69回 大津 雅亮
35回 尾山 啓二	48回 末田 昭	57回 白尾 誠二	72回 三好 直貴
36回 矢田 忠	50回 岩朝 央	57回 岩田 圭一	74回 徳岡 俊治
38回 吉本 文彦	51回 横田 真彰	57回 新屋 久幸	75回 河合 剛
39回 加輪上敏彦	51回 有馬 賢治	57回 濱野 徹	78回 高木 浩二
39回 榊 靖夫	51回 内田 邦彦	57回 西澤 秀起	81回 山脇 敬博
40回 戸井 敏敦	51回 近藤 友之	57回 中村 卓司	86回 田口 耕三
41回 谷口 増雄	52回 安部川 信	58回 山川 丈人	47回生一同

## 【醸金方法】

- (1) 同封の振込用紙を利用し、通信欄にファンドへの醸金の旨を明記して、郵便局もしくは三井住友銀行の「甲陽学院同窓会」の口座にお振り込み下さるか、
- (2) 三菱東京UFJ銀行芦屋支店 普通口座3998990 口座名義 甲陽学院同窓会奨学金ファンド にお振り込み下さい。  
(2)の場合、振込人の卒業回が分かるようにお願いします。

終身会費納付額設定表(平成29年3月31日まで)

97回～91回	30,000円	77回	37,000円	63回	23,000円
90回	50,000円	76回	36,000円	62回	22,000円
89回	49,000円	75回	35,000円	61回	21,000円
88回	48,000円	74回	34,000円	60回	20,000円
87回	47,000円	73回	33,000円	59回	19,000円
86回	46,000円	72回	32,000円	58回	18,000円
85回	45,000円	71回	31,000円	57回	17,000円
84回	44,000円	70回	30,000円	56回	16,000円
83回	43,000円	69回	29,000円	55回	15,000円
82回	42,000円	68回	28,000円	54回	14,000円
81回	41,000円	67回	27,000円	53回	13,000円
80回	40,000円	66回	26,000円	52回	12,000円
79回	39,000円	65回	25,000円	51回	11,000円
78回	38,000円	64回	24,000円	50回～	10,000円

終身会費納付額設定表(平成29年4月1日～平成30年3月31日まで)

98回～92回	30,000円	78回	37,000円	64回	23,000円
91回	50,000円	77回	36,000円	63回	22,000円
90回	49,000円	76回	35,000円	62回	21,000円
89回	48,000円	75回	34,000円	61回	20,000円
88回	47,000円	74回	33,000円	60回	19,000円
87回	46,000円	73回	32,000円	59回	18,000円
86回	45,000円	72回	31,000円	58回	17,000円
85回	44,000円	71回	30,000円	57回	16,000円
84回	43,000円	70回	29,000円	56回	15,000円
83回	42,000円	69回	28,000円	55回	14,000円
82回	41,000円	68回	27,000円	54回	13,000円
81回	40,000円	67回	26,000円	53回	12,000円
80回	39,000円	66回	25,000円	52回	11,000円
79回	38,000円	65回	24,000円	51回～	10,000円

## 学校だより



## 高等学校進路講演会

# 「物質と宇宙の起源を探る」 ～僕が素粒子研究者になったわけ～

名古屋大学 大学院理学研究科教授 飯嶋 徹氏(64回)

2016年6月13日の放課後に、高校の視聴覚教室にて進路講演会を行いました。講師の飯嶋徹(いいじまとおる)氏は本校64回生で卒業後、京都大学理学部の大学院で博士号取得と並行して米国カーネギーメロン大学やブルックヘブン研究所で研究されました。その後茨城県つくば市のKEK(高エネルギー物理学研究所)を経て現在は名古屋大学大学院の教授として素粒子物理学の実験を率いておられます。

素粒子物理学の対象である、最も基本的な粒子とは何なのか、また基本粒子の間の力の法則はどうなっているのか、という究極の問いは多くの現代人にとって魅力的なテーマですが、主に数学的な難解さから専門家以外に理解するのは困難な分野です。

今回、飯嶋氏はこのテーマの最先端に至るまで、高校生にも伝わるように工夫して紹介して下さいました。例えば世界を構成する基本粒子は十数種類あるとされ、その性質によって縦/横の表形式に整理できるのですが、少々堅苦しいものです。氏はいかにも関西人らしく「たこ焼き器」の穴のところに1つずつ素粒子を入れたユーモラスな絵を作られて、心理的なハードルを下げた解説されました。

話題は最先端までおよびます。粒子(電子など)とその「反粒子(たとえばプラスの電子)」が同じ個数あると全てが消滅してしまふ。ところが、なぜか反粒子の方が少ないので、私たちのまわりには普通の粒子がある。同数でない原因は物理法則が対称でないからではないか。これを実証するための実験を氏は21世紀初頭に行い、小林・益川両博士が2008年にノーベル賞を受賞された理論のまさに実験的証拠となったのです。この実験は改良して続けられており、KEKにて現在進行形の世界の先端に行く実験結果の話まで出てきました。

さて、甲陽の生徒であったときの話です。最初の物理のテストではみんなが100点だったのに自身は60点しかなく物理はきらいであったそうです。しかし勉強が進むにつれて直線や曲線を描くいろいろな運動は全て一つだけの物理法則に従っており、ただ初期値が違うにすぎない、この普遍性にひかれて、生物と物理で迷ったが物理を選ばれたそうです。また、1983年に新粒子の発見がなされて人間のなしとげる能力に感動し興奮したことが物理の中でも素粒子分野に目を向けられたきっかけでした。しかし、当時も現在も研究者として生きて行くことは容易ではありません。氏が甲陽での物理の川畑誠一先生から聞いた、忘れ得ぬ言葉をここに記します。

「君がもしやるかやらんかを迷ったら、そりゃ、やる方を選べ」

川畑先生のメッセージが飯嶋氏を通じて、今の甲陽生が人生の選択を考えるとときの励ましや勇気につながって欲しいと思います。

講演の最後に、研究者として大切なことは ①「なぜ」と疑問を発する心 ②問題を解決する力 の両方であるとおっしゃいました。講演後は生徒の真剣な質問が相次ぎ、どの質問にも深みのある答えをいただきました。(橋本修吾)



## 高等学校同窓生講演会

# 「偶然と必然-それでやはり地震予知はできないの？」

大阪大学 大学院理学研究科准教授 山中 千博氏(62回)

2016年11月25日(金)の放課後、視聴覚教室にて同窓生講演会が行われました。今年度講師にお招きした山中千博先生は、1981年に高等学校を卒業後、大阪大学工学部、同大学院工学研究科で工学博士を取得されました。その後、大阪大学理学部助手を経て、同大学院理学研究科宇宙地球科学専攻の准教授に就かれています。現在は、月面の微粒子のレーザー同位体分析法の開発、石英の光誘導ルミネッセンス機構の解明、巨大地震の前の電離層電子異常の解明などの研究を行っておられます。

講演の前半では経歴紹介をしながら、工学研究科電磁エネルギー専攻から現在の地球科学専攻の道へ進まれたきっかけや、カナダ・アルバータ大学での留学生活を通して、学際的な研究が異分野との交わりとなり、それを行うことの楽しさをお話しされ、視野を広げるためにまず飛び込んでみようという生徒たちへアドバイスをされました。

後半では、偶然なのか必然なのかというお話しをされ、それを踏まえた上で、地震予知は可能であるのかについて講演されました。ここでは、最新の地震前駆現象の研究として非常に大きな地震において有効なGPSTEC法について紹介されました。また、科学的・実用的地震予知は現在まだできないが、電磁気的地震前駆現象は実在しており、予知に向けて大きな可能性をもっているということを教えてくださいました。(江本豊)





## 創立百周年記念音楽会案内

来る5月3日(水・祝)に甲陽学院中学校の新講堂において、創立百周年記念事業の一つとして音楽会が行われます。3月末に完成する新講堂のこけら落としとなる演奏会で、フランスからモラゲス木管五重奏団をお招きする予定です。つきましては同窓生の皆様で来場をご希望の方がいらっしゃいましたら、下記の要領でお申し込み頂きますようお願い致します。

日時：2017年5月3日(水・祝) 開場 13:30 / 開演 14:00  
 場所：甲陽学院中学校 新講堂  
 出演：モラゲス木管五重奏団



申し込みについて：

- ・メールまたは同窓会事務局宛にFAXでお申し込み下さい。  
 メールによるお申し込み → 100concert@koyo.ac.jp (100は半角数字)  
 FAXによるお申し込み → 0798-71-4890 (同窓会事務局)
- メール・FAXいずれの場合も  
 回生・氏名・住所・連絡先電話番号・希望枚数(お1人様につき最大2枚まで)をご記入ください。
- ・締め切り：4月8日(土)
- ・申し込み多数の場合は当選者を抽選にて決定致します。  
 当選者には4月22日(土)頃までに整理券を郵送致します。  
 なお、当選者の発表は整理券の発送をもって替えさせていただきます。

当日の入場には整理券が必要です。整理券をお持ちでない場合は入場できませんので悪しからずご了承ください。

なお、この件につきまして学校や同窓会事務局への電話による申し込み・問い合わせはご遠慮頂きますようお願い申し上げます。

## 中学校新講堂見学会と創立百周年記念誌について

詳細は次号「甲陽だより」にて

中学校新講堂が3月中旬に竣工し、5月3日(水)に創立記念音楽会が行われます。ただし、当日は収容人数に制限があり、ご希望の方すべてにご参加をいただけない可能性があります。つきましては、会員総会が行われる8月26日(土)午前中に同窓生の皆様にご見学いただく機会を設けます。ご希望の方は新講堂をご覧いただいた後、ノホテル甲子園へご移動いただき、会員総会に出席いただくようご予定くだされば幸いです。

また、百周年記念事業として学院において「創立百周年記念誌」の編纂が進められております。今秋発行予定ですが、ご希望の会員の方には同窓会事務局を窓口としてご購入いただける予定です。

## 追悼 塚本和男さん(27回 吉田文雀師)

### 年譜

昭和 3 年 6 月 8 日	東京生まれ
昭和 20 年 8 月	文楽座入座。二代吉田玉市の預かりとなり、吉田和夫と名のる
昭和 25 年 4 月	三代吉田文五郎の弟子となり、四ツ橋文楽座において吉田文雀と改名
昭和 57 年 3 月	第 1 回 (昭和 56 年度) 国立劇場文楽賞文楽大賞
昭和 63 年 3 月	芸術選奨文部大臣賞
平成 3 年 11 月	紫綬褒章
平成 6 年 6 月	重要無形文化財保持者 (人間国宝) 認定
平成 11 年 4 月	勲四等旭日小綬章
平成 28 年 8 月 20 日	逝去



2008 年「白鷹緑水苑」にて

## 吉田文雀師を偲ぶ

中川 経治(23回)

吉田文雀師(塚本和夫)が亡くなった。師は正規に卒業していたら 25 回卒である。住居が阪神香榎園駅から夙川堤防を南へ歩いて左側、川東町への石段を下った屋並びで、私の家とは数件離れた近隣だったので幼時から親しかった。私は忘れていたが、浜脇幼稚園には私に手をつないでもらって通ったとのこと。師は当時東京から引越して来たばかりなので、事実そうだったかも知れない。昭和 17 年頃にまだ空襲がなく町会が防空演習に明け暮れていたころ、同じ甲陽中学生だった二人は、町会の催しや爆撃を想定した水かけ競争に駆り出されて、出会う機会が多かった。

師が文楽に入った経緯は本人の説明によるとこうである。幼時、祖母の大切にしていた文楽の人形を勝手に触って家人によく注意されたが、祖母は寛容でいつしか許してくれるようになった。戦争末期に、空襲で焼け出された文楽のある団員が塚本家に住むようになり、中学生活で授業よりも戦時勤労働員が主たる日課となるに及んで進学を諦め、文楽技能士となる道を選んだという。私の家は昭和 20 年 6 月の空爆で全焼し、辛うじて残った玄関で家族全員が暮らしたが、一面焼け野原の彼方に三味線を抱えて歩く人の姿を見かけた記憶がある。塚本家は幸い焼失を免れた。私は昭和 19 年 4 月甲陽中学 4 年を修了して東京へ出たので、休みで帰郷し師の家でお風呂を頂き一緒に湯船に浸かった思い出を最後に、師とは全く交渉が無くなった。

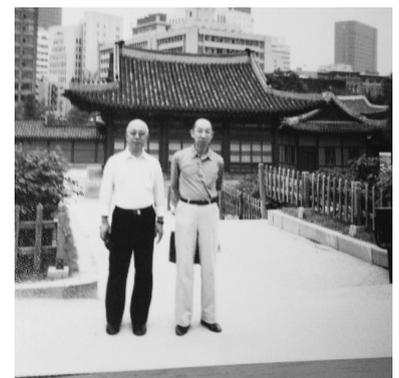
40 年後の 1985 年頃公的な国際文化交流の仕事をして

いた私は、国交正常化になった韓国へ文楽使節団を派遣する際、副団長として訪韓することになった。選ばれた団員の中に塚本和夫こと吉田文雀の名があることを知り言い知れぬ感慨を覚えた。吉田玉男、竹本住太夫等名匠と並び文雀君は今や一流の人形遣いとなっていた。

空港で再会し古の絆を確認し、韓国では折を見ては共に食しお互いに越し方を語り合った。幼少から伝統芸能に集中してきた師匠達の中で、中等教育を終えて文楽入りを果たした同君は、下積みから巨匠吉田文五郎の薫陶で磨き上げた人形遣いの技能は当然として、その博識と巧みな説明力で、文楽への一般の理解増進に大きく貢献した。頭(かしら)割りなどという難事も同君の眼識なくしては容易なことではない。幼小期の交流についても私以上に師の記憶は鮮やかだった。

師には「人間国宝になんかなるなよ」と半ば冗談で話したが、これは伝統芸能の継承者という意味が人間自身の国宝化と取り違えられる恐れがあるからだ。けれどこれは理屈で、人間国宝吉田文雀は立派な文楽技能士で国宝的な存在であることに間違いはない。伏して冥福を祈りたい。

2016 年 8 月 23 日記



1985 年ソウルにて(左)吉田文雀(右)中川経治

# 吉田文雀師を偲んで

河内 厚郎(52回)

道頓堀の朝日座で文楽の興行が行われていた頃から観客の一人として見知っていた。阪神電車内で無心に人形を遣う仕草をしている姿を見かけたこともあり、甲陽の先輩と知ってもいたが、言葉を交わしたのは、30余年前のこと。阪急「門戸厄神」駅傍の線路沿いを歩いていて、文雀さんに出くわし、思わず話しかけたのだった。同級生という歯科医のところへ向かう途中だったらしい。

27回生の吉田文雀さん(本名・塚本和男)が88歳でなくなった。父上は銀行で頭取まで務めたというから経済的に恵まれた家庭で育ったのだろう。両親に連れられて観劇三昧の幼少時代をすごし、棧敷席の母の膝枕で眠ってしまうことも度々あった。昭和9年に逝った名優、六代目尾上梅幸の演じる「四谷怪談」のお岩が如何に恐かったか—といった思い出話をよく聞かせてもらった。昭和20年3月13日、大阪大空襲の日も、道頓堀・弁天座で歌舞伎観劇の最中に空襲警報が鳴り、舞台は即刻中止(主演していた老名優は防空壕で孫を抱きしめ非業の最期を遂げた)といった具合で勉強に身が入らず、落第したことで卒業が一年遅れて徴兵を免れたのだった。出征していたら戦死していたと自身よく語っていたが、いわば拾ったも同然の命なら、好きな舞台の道に進もうと、終戦ほどなく文楽の世界に十七歳で飛び込んだ。まず二代目吉田玉市の預かりとなって吉田和夫と名乗り、その後、明治2年生まれの名人、吉田文五郎の最後の弟子となって、師・文五郎の「文」と仲の良かった中村扇雀(現・坂田藤十郎)の「雀」を取り「文雀」を芸名としたのである。

文楽の世界でも兵役にとられた技芸員が少なくなかったから人手不足となっていて、人形遣いとしての修行の基礎となる「足遣い」を経験せぬまま、文雀少年には役がついていったらしい。が、そこは研究熱心で頭もよかったから、文楽に欠かせぬ存在<sup>かしら</sup>となっていく。首(人形の頭部)の性根や役的心情、作品の背景となる故事来歴等に精通して、「文楽博士」「文楽の生き字引」と呼ばれるようになった。20代からつとめた<sup>かしらわり</sup>「首割」という仕事は、約400ある首が表す性格を一つずつ把握し、役の性根や遣い手の癖に合ったものを演目ごとに割り振っていくというもので、ひとつの公演で数十、常に3公演分は頭に入れ、同じ二枚目役でも顔立ちが微妙に違う首

を場面ごとに振り分けた。一番弟子の吉田和生さん(芦屋市在住)は、師匠の務めた首割の仕事は「とてもまねできない」と語っている。

平成6年には人間国宝に認定された。同時に認定された、同じ女形の遣い手、吉田簀助さん(芦屋市在住)が華やかな芸風の持ち主で、私生活でも艶聞に事欠かなかったから、文雀さんは地味に見られがちだったが、奥村土牛画伯の描いた格調高い文楽人形の絵が文雀さんの遣う人形だったことが示すとおり、品格のある至芸であった。

国立文楽劇場の楽屋へ伺うと、いつも機嫌よく応対してくださった。自宅(西宮市川東町)近い白鹿記念酒造博物館で私がプロデュースした「酒蔵文楽」では当然に座頭を務め、西宮北口の県立芸術文化センターの舞台には気の進まぬ面持ちながら私の願いを容れて出演してくださった。近松門左衛門の墓所がある尼崎・広濟寺の近松祭にも毎年のように出演して、甲陽の同窓会総会で人形を遣ったのは30年ほど前、会場は大阪・中之島のロイヤルホテルであった。

西宮の街を愛し、えべっさんの門前にあった芝居小屋や寄席を懐かしんで、夙川左岸の千歳町にあった、野坂昭如の小説に登場する、美術喫茶「ラ・パボーニ」にも姿を見せた。

葬儀会場となった西宮山手会館では、動物管理センターから譲り受けた2匹の愛猫(さつき、メイ)を前にした遺影と、『仮名手本忠臣蔵』や『摂州合邦辻』などの舞台で人形を遣う文雀さんの映像が参列者を待っていた。息をひきとる直前の言葉は「さつきとメイはどこにいる…?」だったと、同居していた美容師の息子さんからうかがった。お嬢さんは、大女優・杉村春子に憧れて文学座に入座した、女優「つかもと景子」さんだ。

功成り名を遂げた文雀師だったが、引退興行をしないまま引退表明せざるをえなかったのは心残りであったろう。目立たない役でもよいから舞台にまだ立てるのでは一との思いを払拭できなかったからかと察している。

甲陽中学時代の同級生には、TVドラマ「コメットさん」に大場久美子の父親役で出演して話題を呼んだ、テノール歌手の五十嵐喜芳さん(故人)がいた。「和」「洋」それぞれの舞台で活躍する名手が、27回生から出たのである。

# 会員だより

## 38回 平成28年度同窓懇親会

平成 28 年 11 月 10 日(木)13 時より JR 尼崎の「ホテル・ホップイン・アミング」で前年の喜寿記念の同窓会に引き続き本年も開催しました。気楽に 11 月の第 2 木曜日に毎年開催する、名称も同窓懇親会とすると前回の会合で決めていました。

当日は好天に恵まれ東京、名古屋そして四国からも駆けつけてくれた仲間を含め 28 名が参加致しました。この 1 年間に亡くなった水垣健君、佐藤敏武君のご冥福を祈ったあと楽しい宴会に入り、談論風発、旧交を大いに温めることが出来ました。途中、最愛の伴侶を亡くされた 4 名の仲間を励ましたり、柴田始宏君提供のお酒をオークションにかけて会費の足しにさせてもらったりも致しました。

今回は高校 A 組が幹事を務めました。次回は B 組担当で開催することを約し、校歌を合唱して散会しました。

次回同窓懇親会は、平成 29 年 11 月 9 日(木)13 時、ホテル・ホップイン・アミング (JR 尼崎) で開催いたします。スケジュールをメモしていただき、積極的なご参加を期待しています。(西田武史)



## 48回 学年同窓会開く!!

今年は卒業 50 周年・8 月 26 日ノボテル甲子園に全員集合!!

大阪天神祭前日の 7 月 23 日(土)16 時～18 時に阪急梅田の 17 番街「シーファー」にて恒例の 48 回卒学年同窓会を開きました。初参加や遠来のメンバーも加わり、参加者は静先生を含めて 35 名でした。

昨年から年齢に合わせて立食ではなく着席に切り替え。やっぱり楽だね。まず進行役の大塚さんよりこの 1 年では亡くなった仲間がないことが報告され、続いてこれまでに亡くなられた 14 名の仲間のご冥福を祈って、1 分間の黙祷。(居谷、福井、岡上、森口、藤田、坂本、本木、鈴木、広沢、横内、若池、苗村、鶴飼、遠山の各氏)

次いで元気あふれる緒方さんの音頭により乾杯し、ク

ラス毎のテーブルで暫し歓談後、恒例のクラス単位の近況報告が A 組→B 組→C 組→D 組の順に行われました。

地域自治会の役員に当たり慣れない活動に頑張る X 君、時間に余裕ができて昔熱中した昆虫採集を再開した Y 君や Z 君、この歳になってなお資格試験に挑戦する P 君、畑仕事に心の安らぎを感じる Q 君、今更ながら夫婦の暮らし方を探る R 君とみなそれぞれの生活や苦勞をそれなりに楽しく報告し合いました。

そして今回もお招きした我らがアニキ「静先生」より「昆虫採集に励む人が多いのは当時の生物の A 先生の影響の大きさだと思われるが、その A 先生と大山に一泊出張した話、山道でマムシを見つけた A 先生は手づかみでカバンに放り込み、夜睡眠中にカバンがごそごそいうのを冷や汗を掻きながら耐えたこと、後日そのマムシを強壯剤にしたものを A 先生から有難く戴いた」ことを披露され一同大笑い。いろいろユニークで個性豊かな先生方に支えられて今の自分達があることに改めて気づかされました。

また山崎幹事より「来年は卒業 50 周年で全体同窓会のホームカミング学年に当たるのでみんな元気に 2017 年 8 月 26 日にノボテル甲子園に集合しよう!!」との呼びかけが行われた。

最後に全員写真を撮りお開き。

また今年元気で会いましょう。

今回の学年同窓会の出席者

静先生

A 組：天田、池田、片野、夏住、棟広、米良、森田

B 組：緒方、上農、木幡、竹山、丹家、中山、山崎、米北

C 組：穂山、池内、大塚、河内、川端、木村、中西、松尾、宗

D 組：伊賀、伊藤、植田、儀賀、柴田健、下田、濱中、眞嶋、安間、山元

計 35 名 (幹事：A 池田、B 山崎、C 大塚、D 伊賀) 尚、東京でも 4 月下旬にクラスを超えた同窓会を開いています。幹事は小島君・土岐君です。

またゴルフ会も年 2 回(春と秋)行っており、幹事は伊賀君です。(池田収一)



## 51回

## 甲子園

甲子園と聞けば普通の人は高校野球を想起するが、我々世代の甲陽OBが思うのは球場より近い学舎である。阪神甲子園駅の目の前で8時28分着の電車で着き校庭を疾走し8時30分の朝礼・点呼に間に合う豪の者もいた。夏の大会であるが我々と同学年の覇者は松山商業である。松山商業・井上明と三沢・太田幸司が投げ合い延長18回0対0で引き分け。翌日の再試合で決まった有名な決勝戦である。時昭和44年(1969年)8月18日。村上千秋

中高6年を通じて村上千秋さんが国語の先生である。50年も前のことだが芦屋西蔵町のお宅によくお邪魔した。その時家におられた3才上のお兄さんが村上春樹さんである。千秋先生は生粋の京都人であった。漢詩に長じ俳句を詠じ、中学生相手に平仄・起承転結を説き方丈記を名詞子で組といてくれた。典雅な文化人で受験用の勉強だけでなく総合的な国語力を仕込んでくれたとは実に有難い話である。

## ナポレオン

宮川秀一先生が教えて下さったナポレオン・ボナパルトではなくトランプのカード53枚を使うゲームである。(ナポレオン・副官軍)対(連合軍)で絵札20枚を取り合うゲームであるが序盤・中盤までは敵・味方が分からず大変奥が深く面白い。私見だが、二人のゲームでは囲碁、三人ではゴウ・ストップ(韓国での花札ゲーム)、四人では麻雀、五人ではナポレオン、が古今東西で最高の室内ゲームである、と確信している。

## 原田級長

学業優秀は当然のこととして器量が大きく皆から慕われる人格者が級長となる。A組では丸島俊介さん、B組では田辺一也さんであるが我がD組では原田力さんである。で、甲子園時代から半世紀経った今も級長さんを囲み、最近では妻まで加わり6夫妻で年に2回の旅行を楽しんでいる。各地での旧蹟探訪・飲食の楽しみより寸暇を惜しんで室内でのナポレオンに興じている。6人の妻からは「いい年寄り何がそんなに楽しいの」とあきれられている。写真の後列左から生島達之助・原田力。前列左から山口力・壺坂久次・村上正裕・近藤友之である。同窓生の参加大歓迎。甲陽万歳。

(近藤友之)



## 57回 卒業40年記念同窓会

57回生は高校卒業以来、基本的に5年に1回学年同窓会を開いてきましたが、今回は卒業40年ということもあり、初めて東京で開催しました。2016年9月18日、東京・学士会館に61名の参加を得て16時スタート。司会は当日指名の将積・谷本両君で、恩師・同級生の物故者への黙祷のあと、同窓会本部から名簿編集事業などの連絡(箱田同窓会副会長)、母校の現況報告(今西母校教頭)が行われて、祝宴。乾杯の発声は最遠隔地(福岡県)から参加した佐々木浩君、その後は全員からの30秒スピーチがあったり(なぜか1時間以上かかりました)、写真撮影(カメラマンは廣瀬哲司君・松葉君ほか)をしたりで、あっという間に19時の中締めとなりました。

久しぶりの再会に話が弾んでお酒どころではなく、せっかくの飲み放題プランがもったいないような状況でした。その分、2次会(54名参加)では予想を遙かに上回る飲みっぷりで予算超過、臨時にカンパを募集して急場をしのぐなど幹事泣かせのしかし楽しい一日でした。総幹事長関家君どうもありがとう。

そろそろ仕事人生に先が見えてきたのか、一同同窓会が恋しくなって、慣例を破って2017年にも還暦記念同窓会をしようということになりました。10月8日(日)の夕刻より神戸で開催します。あらためてご案内しますが、ぜひご予定を。(今西昭)

## 甲陽史学会

8月27日(土)10時から12時までノボテルで恒例の甲陽史学会を開催しました。今回は、宝塚市教育委員会で長らく文化財行政に携わってきた直宮憲一さんに「八角墳の出現とその歴史的意義について」と題し、古墳時代終末期に顕れる特徴的な八角墳は、当時の天皇陵とのかかわりが問われている重要なテーマです。直宮氏は、大和・河内の大王陵・天皇陵とは別に各地に出現する小規模八角墳について、自身が調査した宝塚市中山荘園古墳をもとに研究してこられた成果として自らの仮説を述べられ、参加者からも活発な質疑が行われました。参加者は山内英正(元教員)、新井・長尾・森本(37回)、江崎(38回)、難波・橋本(41回)、下井(42回)、中島(43回)、田辺(44回)、久加天(51回)、武田(52回)、久(62回)など、あわせて20名でした。懇談では、田岡・高井・宮川3先生の思い出も大いに語られました。



### 60回 角一会(1979年卒)食事会2016

我われ 60 回生は、甲陽高校が甲子園から角石町へ移転した最初の卒業生です。

平成 28 年は、5 月 28 日大阪本町、6 月 4 日東京新橋、6 月 11 日名古屋にのべ 26 人の同級生が集まり、食事会を開催しました。

すべての会場に静利一郎先生のご臨席を賜り、最近の甲陽学院の様子や昔話に花が咲きました。

今回の食事会の模様は、動画に記録し、ホームページ「1Q79」<http://koyol1979.atgj.net/>へアップしました。(閲覧には ID とパスワードが必要です) 参加者の近況報告などを見ることができます。

また、このホームページには平成 28 年 5 月 8 日に開催された高校の運動会や平成 28 年 8 月 27 日に開催された同窓会会員総会の模様などもアップされています。

1979 年卒業生で「ID」「パスワード」をご存じでない方は [yoko1979@gmail.com](mailto:yoko1979@gmail.com) までお問い合わせください。

(池田雅彦)



### 甲陽学院同窓会

### 親睦ゴルフコンペのご報告(平成28年度 上期・下期)

平成 28 年 6 月 5 日(日)、平成 28 年 11 月 13 日(日)に行われた第 18 回と第 19 回ゴルフコンペのご報告をさせていただきます。両日とも天候に恵まれ、初参加の方も加え、楽しく・親睦できたゴルフ会でした。

第 18 回は幹事の綿谷(60 回)が第 17 回に続き連覇となりました。また第 19 回は大山司さん(56 回)の優勝となりました。優勝賞品は、美味しい三田和牛肉となっており、いつもこれを狙っての戦いです。またブービー賞の方にも同じ賞品となっており、秘かにこちらを狙っておられる方も多ようです。ブービー賞は、第 18 回は岡田清さん(55 回)第 19 回は甲陽学院数学教諭の谷晋一郎さん(75 回)が初参加でゲットされました。来年は甲陽学院創立百周年の記念の年でもあり、また今回は当コンペも第 20 回の記念大会となりますので、大いに盛り上がる大会にしたいと思っております、各学年お誘いあわせで、多数のご参加を期待しております。

#### 主な成績

<第18回>

優勝	綿谷 卓(60回)	GROSS 88	NET 71.2
準優勝	大林良和(55回)	GROSS 85	NET 73.0
第3位	坪井弘光(35回)	GROSS 100	NET 73.6

<第19回>

優勝	大山 司(56回)	GROSS 91	NET 73.0
準優勝	山崎 浩(52回)	GROSS 107	NET 75.8
第3位	芝原 功(57回)	GROSS 99	NET 76.2

#### 次回のご案内

次回も、平成 29 年 5 月 14 日(日)武庫ノ台 GC での開催となっています。

連絡先：吉井友実(54 回)

E-mail [yoshii517@hcc6.bai.ne.jp](mailto:yoshii517@hcc6.bai.ne.jp)

携帯電話 090-2385-1976

(60 回 綿谷卓)



## 62回 同窓会総会後、2次会を開催

去る8月27日に開催された同窓会総会では、私ども62回卒はホームカミング学年であったことから、メーリングリストやFacebookで総会への呼びかけた結果35名の参加が、また総会後に同期で2次会を、との呼びかけに対しても36名の参加がありました。2次会には山下校長にもお越し頂き、中学・高校の今の様子を承ることができました。通常1月に開催している同期同窓会にはなかなか参加できなかった方のお顔も久しぶりに拝見でき、それぞれに現状や思い出を披露しあう中、そんなことあったっけ、といった健忘症気味のおっさん達のボケもはさみながら、笑いの絶えない楽しい会になり、最後は再会を約束して散会しました。

なお、次回同期同窓会は、来年2018年1月2日に行う予定です。同窓会の案内をはじめ今後の連絡のため、未だメーリングリストにメールアドレスを登録していない方はkoyo@watase.infoまでご連絡をお願いします。また、ホームページ (<http://www.watase.info/koyo62/>) やFacebookでも情報交換を行っていますのでこちらもご活用ください。

(渡瀬誠)



## 甲陽・灘サッカー定期戦およびOB懇親会報告

10月2日サッカー晴れの日曜日、甲陽・灘サッカー定期戦が灘校で行われた。両校サッカー部顧問の先生方のご尽力、父兄の応援も得て伝統ある一戦は今年も怪我なく成功裏に終了した。中学1-0甲陽勝利、高校3-0灘校勝利、OB3-2甲陽勝利であった。昭和28年に始まり今年で実に64回を数える。通算戦績は、中学甲陽の27勝30敗7引分、高校甲陽の29勝23敗10引分不明2となった。

現在両校サッカー部には中高各40~60名程が所属しサッカー人気は高い。OBは、灘17名、甲陽20名が参加した。東京からもこのために日帰りでサッカーへの衰える事のない情熱と共に3名の先輩方が参加された。現役生によるパス重視の現代サッカーの湍急プレーに触発され、OBも蘇り過ぎし日の情熱と共に勇躍OB戦に臨んだ。41回濱田大先輩のゴールに向かってドリブルされる勇姿には喝采が上がった。15分ハーフ、必死にボールを追いかけ、思いと体は多少裏腹であったが、久しぶりに心身共に爽やかな汗をかき、OBの方々皆、満足の笑顔であった。

試合後のOB懇親会では甲陽サッカーOB会南会長による乾杯に始まり、諸先輩からご挨拶を頂いた。両校サッカー部の歴史比べでは、「甲陽は来年2017年に創立百周年を迎え、サッカー部は創部95周年を迎える。灘校は来年、創立90周年を迎える。従って、サッカー部の歴史は甲陽の方が古い伝統を誇る。」「灘は学校創立と同時にサッカー部を創部しており、本学と同じ歴史を歩んでいる。」「既にサッカー部を擁する甲陽に遅れまいと灘は学校創立と同時にサッカー部を立ち上げたものと思われる。」と丁々発止和気あいあいのやり取りがなされた。また、思い出のあの勝利は我がシュートによるものであり、そのシーンをスローモーションで再現されるなど、OB懇親会は大いに盛り上がった。

来年もまた定期戦に集う事を楽しみに、サッカーへの情熱を多くの方々と共有できる機会に心から感謝した。

最後に35回中村貞三大先輩の訃報をご報告しなければなりません。昨年平成28年12月20日にご自宅で倒れられ同月30日午前3時過ぎに亡くなられました。享年80歳(満)。葬儀は31日に執り行われました。中村先輩なくして甲陽サッカーなしと申し上げて過言ではないと思います。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(52回 武田信一郎)



# 東京甲陽ネット

## 「甲陽でよかった！」を実感する交流会と すごい OB に会えるセミナー

東京甲陽ネットの交流会には毎回楽しいサプライズがあり、和気あいあいとした温かい雰囲気と笑いが溢れています。



### ■人の宝庫、情報の宝庫

12 回目の交流会は昨年 11 月 11 日（金）でした。（会場・赤坂「響」）

前々日にアメリカ大統領選の結果が判明し、翌 10 日、メディアが驚きや危惧を交えて伝える中、S 紙一面の「トランプ大統領でいいじゃないか」という意表を突いた見出しのコラムが注目されました。筆者は 62 回卒の編集局長・乾正人さんです。

早速交流会で執筆から掲載に至るまでの経緯を話していただきました。予想を覆す結果や新大統領の評価に戸惑う現場の様子をリアルに再現して下さい、会場は笑いの渦に。

続いて参院議員の石田昌宏さん（67 回）が、「きのう、総理が参院の議運委理事をねぎらう夕食会を開いて下さった。その際、総理も『トランプさんならトランプさんでいいじゃないか』とおっしゃっていた。この記事を読まれたんじゃないだろうか」と、「官邸エピソード」を披露。初参加の若い甲陽生が「ここは情報の宝庫ですね」と目を輝かせていましたが、その通り。

### ■サプライズも

五十嵐喜芳さん（25 回・昭和音大学長＝当時＝・平成 23 年没）が会の半ばで登場されたのは第 4 回の交流会でした（平成 20 年）。

五十嵐さんは日本を代表するテノール歌手として活

躍、人気テレビドラマにもレギュラー出演するなど、甲陽卒の有名人では別当薫さん（18 回・元プロ野球選手・監督・平成 11 年没）と双璧をなす存在でした。

「甲陽、なつかしいなあ。私も行っていいですか」と五十嵐さんから電話をいただき、世話人と特別顧問の中川経治先生（23 回）だけが知るサプライズに。

大きな拍手で迎えられた若々しい五十嵐さんに甲陽時代の思い出を語っていただきました。佐治信忠東京甲陽ネット会長（45 回・サントリー HD 会長）とはサントリーホールや堤剛さん（チェリスト・佐治さんの妹婿）の話題で盛り上がっていたようです。

### ■発足 13 年目

「東京で先輩後輩が自由闊達に交流できる仕組みを作ろうよ」。一人の後輩に声をかけ、42 回・水野学さん（初代世話人代表）を座長に発起人会が発足したのは平成 12 年のことでした。コンセプトや技術面、運営面の課題を検討し、夜がふけると居酒屋に場所を移して談論風発。一方で HP の作成や ML の構築を進め、名称や規約なども決定して、平成 16 年 10 月 1 日に HP を公開しました。そして登録と ML の始動で東京甲陽ネットはそろりと立ち上がったのでした。

### ■世代を超えて楽しく交流

以来、交流会 12 回、OB セミナーも 10 回を数えました。同期だけで固まることもなく、学年の壁をなんなく乗り越えてテーブルを行き来する光景が当たり前になっています。

うれしいのは他校の東京同窓会などに比べ 20 代から 40 代の参加者が多いこと。この年代は公私多忙で同窓会への出席率が低いと言われていたのですが、東京甲陽ネットでは現役バリバリ世代や学生で活気に溢れています。「すごいのに偉ぶらない先輩と、若いのに頼もしい後輩」が旧知のように親しく語り合っているのを見るにつけ、東京甲陽ネットの合言葉、「甲陽でよかった！」を実感します。

### ■先輩後輩の橋渡しにと

参加者はあらかじめ HP 内の参加者名簿で予備知識を仕入れておくことができますが、当日も初参加や学生の

方々を紹介するのはもちろん、会話のとっかかりになればと、できるだけ多くの方を勝手にPRさせていただいています。

ふだんは「東京甲陽ネット通信」で人事往来や叙勲、著作、甲陽関連の話題をお伝えしているので、「あ、メールでお名前を拝見しました」と初対面から話がはずむことも。

「若い世代を応援したい。また、既に社会で活躍し相応の立場を築いている先輩たちとの橋渡しになりたい」――。

“ふつうなら会えないようなすごいOB”においていただいで講演と懇親会を開いているのも、そんな熱い発起の理念からです。

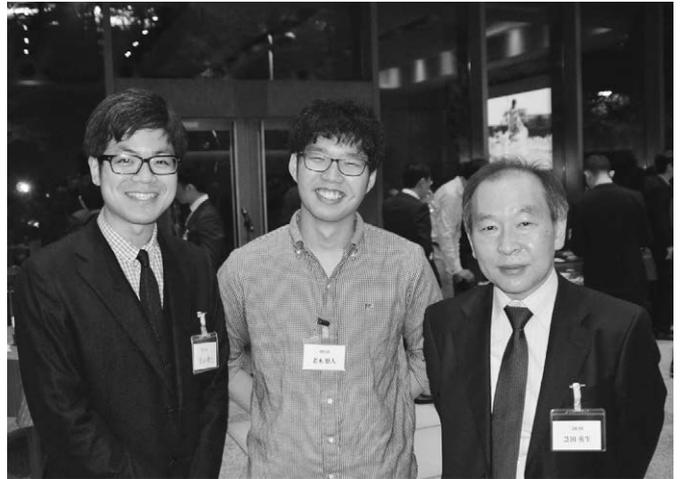
東京甲陽ネットに参加して関西に戻った若い世代が「関西甲陽ネット」を立ち上げてくれました。“懐かしいから集まる同窓会”から“積極的に甲陽人脈に分け入る交流会”に共感してくださった結果だと心強く思います。

末尾になりましたが、交流会・セミナー22回のうち21回出席して下さっている中川先生には感謝で頭が上がりません。しかし先生もきっと私たちと同じ思いでい

らっしゃるのだと思います。そう、「甲陽でよかった！」と。

(OBセミナー講師はHPトップでご確認下さい。  
<http://www.tokyo-koyo.net/>)

(東京甲陽ネット世話人代表 45回 新宮康彰)



## 甲陽 ML ランナース 2016 年決起集会

日本のランナー人口は現在1,000万人と言われていますが、そのうちの19人が我々「甲陽 ML ランナース」です。

当サークルは46回の方々を中心に2000年に発足し、現在のメンバーは43回から75回までと世代を超えて集まっています。この17年間、メンバー個人個人で様々なレースに参加するほか、リレーマラソンへの出場や合同トレを行ってきました。しかし、近年はメンバーの高齢化(最高齢は73歳)や走り過ぎ(?)による故障等に伴い活動が停滞していました。そこで、昨年12月に冬トレと決起集会を行いました。

決起集会(単なる飲み会に見えますが…)には久しぶりに大人数が集合し盛会となりました。今回の参加者(敬称略、順不同)は、43回:青木、田村、46回:岡田、重田、吉井、勝村、森、柴田、49回:小路、山本、52回:佃、61回:新谷、63回:小鯛の13人です。

今年も、個人活動以外のサークル活動としては、春と秋にリレーマラソンへの参加、夏と冬の合同トレーニングを予定しています。

なお、当会では新規入会者を募集しております。会費

等は一切不要で、実費負担のみです。名前こそ「ランナース」ですが近年はジョギーズとかハイカーズ化が顕著になっていますし、イベントへの参加不参加は自由ですので、どうぞお気軽にご入会ください。

興味がおありの方は、

URL <http://ms3.itak.or.jp/MLrunners/> まで。

お待ちしております。

(61回 新谷弘道)



## リレーエッセー

## 「私の中の甲陽」

中川 経治 (23回)



平成15年に手元へ届いた会員名簿の最初の数頁をめくると様々な思い出が頭をよぎります。創立者の辰馬吉左衛門翁にはお目にかかった覚えがありませんが、実際上の開学者で初代校長の伊賀駒吉郎先生は私が入学した昭和15年の入学式に出ておられたような気がします。伊賀先生は甲

陽開学前大阪の府立夕陽丘女学校の校長だったようで、私の母はその時代の夕陽第一回生だった関係で、母からは先生のことを聞いていました。先生は府立の型にはまった教育に批判的で、より自由な校風を目指して甲子園の地に新たな学府を開学し、甲陽中学と名付けられたようです。私は東京にいた数人の1回生と親交を持ちましたが、そのころは武庫川の支流枝川の堤で昼食を食べ、苺畑の苺をつまんでのんびりと昼を過したとの話でした。甲陽行進曲という寮歌風の歌が校歌として歌われていたようです。大阪の北野中学などは白いゲートルを両足に巻いて通学していましたが、甲陽は短靴でゲートル無し、肩掛けカバンでなく手提鞆、というリラックスした形での通学でした。甲陽十二訓という教えは伊賀先生によるものですが、これがあれば校則など不要です。

昭和15年の入学後間もなくでしたか、全校生が講堂に集められました。初代理事長の辰馬勇治郎氏が壇上に上がり大変丁寧な口調で、このたび伊賀先生が校長を辞められ、教頭の小林岩助先生が校長になられるとの報告をしました。特に説明はありませんでしたが、伊賀先生は新たに開学した大阪樟蔭学園の校長でもあり二足の草鞋は履けないということのようでした。小林先生は甲陽に来る前に香川県立丸亀中学で十分教育経験を積んだ方のように、私も声を掛けてもらった記憶があり感じのいい方でした。太平洋戦争に入った時期で、校長自らが修身の授業を担当し、教育勅語の解釈などで生徒が少々参ったことがありました。ただ牡蠣を食べ腸チフスに罹って急死され、校長在職が短期間に終わったことは気の毒でもあり残念な気もします。小林校長は秋の文化祭で来校の父兄に対し、前年度の卒業生の実に40名もが高等学校（旧制）に合格したと繰り返し報告されていましたが、確かにその頃甲陽中学は進学成績を上げつつあったように思います。太平洋戦争が進み順調だった学園の教学体制が軍事教練、勤労働員、連合軍進駐等で大変な痛手を蒙ったことは痛恨の極みです。

私は早大を卒業し戦後の昭和26年今度は教員として母校に戻りましたが、学校は学制改革で辰馬育英会甲陽学院と名前を変え、中学は香栞園、高校は甲子園となり、先生方も顔ぶれが大幅に変わっていました。在学中は結

構あだ名で呼んでいましたが、今度はそういうわけにもいかず、一方高3の生徒からは年齢が6才程度の差だったのに先生と呼ばれ、最初は聊か違和感がありました。教頭の三谷先生から高3は選択制で時事問題という授業があるので担当してほしいと言われ、これはと戸惑いましたが、出席は数人なので新聞記事を材料としてその解説を軸にしてやってみました。何しろコピー機などない時代です。いつか8月の会員総会で当時の卒業生に会った時、あの頃授業で習ったベネルックスという言葉を人に話したら誰も知らなかったとのこと。但し当時正課目は一般社会と呼ばれ、歴史でも地理でもない、と言って以前の公民でも修身でもない、民主社会における必要且つ基本的な知識ということで、特に高1では知性を養う目的で教科書は使わず、自由に課題を選び材料を自分で作成して大学式に教えてみました。当時の皆さんに多くの文章の口述筆記、特に中学では日本国憲法の条文学習、アメリカ48州（当時）の暗記とその試験などで、ちょっと迷惑だったかもしれませんが、私の方も今思うと果たして良かったのかしらと反省することしきりです。

高校の講堂は立派でした。5月の創立記念音楽会では毎年素晴らしい演奏家が来演しましたが、今も続いているのですね。私は三宅春恵さんの声楽以来小河先生を手伝って舞台の裏側を見てきました。平岡養一（木琴）津川主一（合唱団）野辺地瓜丸（ピアノ）辻久子（バイオリン）原千恵子（ピアノ）江藤俊哉（バイオリン）五十嵐喜芳（声楽）等諸氏ですが、どれをとっても超一流の顔ぶれです。中でも旧知だった辻久子さんは持ち前のきっぷの良さもあり、アンコールに次ぐアンコールと大サービスでした。25回の五十嵐さんは稀有の美しいテナーで学院歌の発表を引き受けて下さり大拍手で感動の渦でした。私のドイツ語の恩師リルツ夫妻が来ていましたが、夫人がイタリア人だったのでナポリ民謡を聴いて余程嬉しかったと見え、演奏後五十嵐さんのところへわあっとイタリア語で話しかけに来ました。偶々傍にいた太田先生が「五十嵐さんはシ、シばかりだね」と笑って話しておられたのを覚えています。

私は芥川校長時代のための12年半でしたが、勉強不足を痛感し学校に無理をお願いし退職して留学のため西ドイツへ向かいました。校長他全先生で送別会をして頂き一同で学院歌を歌ったとき流石に涙が出ました。以上私の中の甲陽のごく一部、披露させて頂きました。

## 中川経治(なかがわけいじ)

早稲田大学(旧制)文学部哲学科卒業後、51年から63年まで甲陽学院教諭(社会)。

西ドイツ・ゲッチンゲン大学留学を経て、在日西ドイツ大使館文化部通訳官、国際交流基金事業部長・ロンドン事務所長、東京芸術大学教授、中国・東北師範大学教授を歴任。

# 告 知 板

### ☆ 新卒者の終身会費制度 ☆

今年高校を卒業した98回生の皆さんは、卒業時点で終身会費を納めることを選択できます。詳細は、追って振込用紙同封の文書にてご案内いたします。  
 また、これに伴い、卒業後7年以内の方（卒業時に7年分の年会費を前納）でも、ご希望により終身会費制に移行していただけるようになっていきます。その際の金額はP.3の表をご覧ください。

### ☆ 会報「甲陽だより」の原稿募集 ☆

- \* 次号・第96号は、平成29年7月末頃に発行を予定しています。
- \* 「会員だより（同期会・クラス会）」「運動部・文化部のOB会だより」などのご投稿をお待ちしています。
- \* 原稿の締切日は、平成29年5月31日です。

### 関西甲陽ネット

関西甲陽ネットは若手同窓生を中心に2013年に誕生しました。2016年は春の集まりに続き、第六回交流会を12月10日に行いました。関西甲陽ネットのこれまでの活動と今後の予定につきましてはウェブサイトをご覧ください。  
<http://kansai-koyo.net/>

阪口導三郎氏 <small>高商32</small>	大森章一氏 (48回)	真鍋裕史氏 (48回)	北川茂樹氏 (47回)	石原隆氏 (47回)	田中泰弘氏 (45回)	後藤勝三氏 (45回)	川淵秀和氏 (44回)	澁谷元氏 (43回)	山崎崇正氏 (40回)	西川幹生氏 (40回)	西野忠佑氏 (39回)	佐藤弘治氏 (37回)	中村貞三氏 (35回)	塩谷洋一氏 (35回)	寺本道郎氏 (32回)	花房高人氏 (31回)	武田弘氏 (25回)	田中邦彦氏 (25回)	持永善尚氏 (22回)	和多利俊作氏 (20回)	和野利俊作氏 (20回)	梶田凡平氏 (20回)	エドワード・M・ツツカワ氏 (18回)	木村一雄氏 (18回)
16年3月12日	14年1月14日	16年10月30日	16年11月1日	16年5月26日	16年9月19日	16年11月11日	16年11月11日	16年8月31日	16年10月1日	15年8月8日	16年9月16日	16年6月28日	16年12月30日	16年8月22日	16年6月20日	16年8月20日	16年8月16日	16年5月31日	08年12月20日	16年5月4日	16年5月4日	16年6月7日	16年11月17日	

## 訃報

(平成29年1月31日現在)

事務局では左記会員の逝去の報に接しました。謹んで哀悼の意を表します。

### 訃報 大野 哲哉 先生

1975年から2007年まで保健体育科教諭として勤められた大野哲哉先生が、2017年2月13日逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

大野哲哉先生の追悼文を次号甲陽だより（第96号）に掲載する予定です。

### ■あて名ラベルの記号の見方

既に終身会費や年会費をお納めの方には失礼ですが、今回も振込用紙を同封しております。未納の方は、よろしくお納め下さい。

平成29年1月31日現在での同窓会費の納入状況をご案内しています。

例：終身会費H20年度

♪卒111	11111	11111	1100終
-------	-------	-------	-------

①枠の上には、前納の年度、または、終身会費をお支払い頂いた年度を示しています。その他の場合、この表示はありません。

②枠内には、順に平成元年度、2年度、…28年度の年会費のお支払い状況を示しています。

### ▼ 記号の意味

1	当該年度分の年会費を納入済	終	当該年度に終身会費を納入	♪	甲陽学院を卒業するまでの年
0	当該年度分の年会費を未納			卒	その年の3月に卒業

従いまして、下段に含まれる0の個数 × 年会費が、未納の年会費となります。同封の振込用紙にてお支払い下さい。

★H元年以降にご卒業の方は、卒業時から7年分の年会費を予めお納め頂いております。

次の2つの例をご参照下さい。

♪♪♪♪	♪♪♪卒1	11111	11111
00000	000		

H21年以降は未納です。未納分をお納め下さい

♪♪♪♪	♪♪♪♪	♪♪♪♪	♪♪♪♪卒
11111	111		

H20年3月にご卒業、さらに1年分の年会費を頂いたのでH28年度まで納付しておられます。

◎尚、年会費を納められるとき「何年度分」と指定されても、過去分が未納の場合、そちらへ充当させていただいております。また不明の場合は、事務局までお問い合わせ下さい。

## 母校創立 百周年記念

# 会員総会のご案内

8月26日(土) 12時30分～16時30分 於:ノホテル甲子園

今年は母校創立百周年という記念の年です！毎年の夏の恒例行事となっている会員総会でも、同窓生が一堂に会し、百周年を祝うべく、現在企画を進めています。詳細は次号にてご案内しますが、以下のような内容を予定しています。

甲陽建学の正6年(1917)といえば、第一次世界大戦の真最中で、年初には英国が日本艦隊の欧州派遣を要請。ロシアでは2月革命が勃発してロマノフ王朝が滅亡。4月にはアメリカがドイツに宣戦布告。9月には孫文が中華民国の広東軍政府を樹立し、11月にはボリシェビキの武装蜂起によりソビエト政権が成立するという激動の年でしたが、日本は比較的平穏な時期で、文学界では、志賀直哉の『城の崎にて』、萩原朔太郎の『月に吠える』といった名作が世に出ています。そんな頃、阪神間のほぼ中央に創立されて、自由で開明的な気風の下、第二次大戦や阪神大震災といった試練を潜り抜け、ユニークな人材を世に送り出してきた、母校の一世紀を振り返り、その歴史の中の一員として自分が加わることを思えば、まことに感慨深いものがあります。

新たな出発点ともなる、この記念すべき年の「ホームカミングデー」にあたる学年は、48回生、63回生、73回生です。当該学年の方はもちろん、その他の学年の方もご参加頂き、在学当時のことなどを語りあいながら、旧交を温めて頂ければ幸いです。

### 第1部 式典と講演会、パネルディスカッション

講師に今田高俊氏(48回)をお招きし、「リベラルアーツの再興」と題した基調講演を賜ります。

今田氏は1972年、東京大学文学部社会学科卒業後、同大学大学院社会学研究科に入学、1975年に同博士後期課程を中途退学し、同助手に就任されました。79年に東京工業大学工学部助教授、88年に同大学工学部教授に昇任し、96年発足の同大学大学院社会理工学研究科の設立にも貢献されました。著書は『自己組織性－社会理論の復活』(創文社)などがあり、日本を代表する社会学者として国内外で積極的に活躍されています。また、同窓生や現役教員らによる、「甲陽を語る」と題したパネルディスカッションも行います。



### 第2部 懇親パーティー

様々なイベントを準備しています。今回は、甲子園の名物でもあるタイガースガールズがやってきます！活気と華やかな雰囲気の中で、一緒に母校の百周年を祝いましょう。また、九十周年の際に好評を博した福引きを今年も実施します。同窓生から寄贈して頂いたユニークな賞品を取り揃えていますので、楽しみにしてください。

### 中学校での新講堂見学会

当日の午前中、中学校では新設された講堂の見学会が開催されます。甲陽の今を味わってみてはいかがでしょうか？

8/26(土)は終日、甲陽 Day として、ご予約の確保をお願いします。

## ◆◆◆ 「会員名簿追加販売のお知らせ」 ◆◆◆

会員名簿を入手されていない会員の方でご希望の方は同窓会事務局までお知らせくだされば購入可能です(一部5,000円)。事務局よりお送りする振込用紙でお振込みください。サルト社から以前に送られた振込用紙はお使いいただけませんのでご注意ください。

なお、ご自身の情報が非公開の方には販売しないこととしております。また住所不明等で掲載されていない方・掲載住所と異なる住所への発送を希望される方については一定の手続きのもとに販売いたします。

同窓会事務局 電話：0798(71)4888 (月・水・木・金 10:00～16:00)  
メール：fvgp1650@mb.infoweb.ne.jp